

『K135遺跡4丁目地点（1988年度調査）』
札幌市文化財調査報告書XL 抜刷

K135遺跡4丁目地点出土の植物種子

吉崎昌一

1990年3月

札幌市教育委員会

第2節 K135遺跡4丁目地点出土の植物種子

吉崎 昌一

1 遺跡・時期・調査者

1989年11月から同年12月にかけて、札幌市教育委員会はJR北海道函館本線札幌駅構内高架化工事に伴う遺跡の調査を実施した。ここに報告する植物種子は、この調査で出土したものを同教育委員会調査班の提供で調べたものである。種子を含んでいた地層からは、縄文時代後期に属する西暦3世紀末～4世紀代の後北C₂-D式土器や石器が発見されている。

2 試料の採取

調査地区は隣接して流れていた旧河川（埋没河川）に面し、第3章に記載されているように遺物出土層を含む各地層はきわめて複雑なプロファイルを見せる。こうしたシルト、砂などで構成される堆積層の中に、焼土層や炭化物を多量に含み「炭層」として区分けされたものが狭在している。フローテーション用の土壌試料は、明らかな焼土集積部分と炭化物集中部分とから採取されている。フローテーション作業は、発掘調査班の中で実施、その結果得られた浮遊炭化物のみが分析対象として提供された。土壌試料の容積その他については、第1表を参照されたい。

3 分析結果（第5、6表、図版33、34）

第5表 K135遺跡4丁目地点
出土エノコログサ計測表

a. メヒシバ属 DIGITARIA Haller：炭層55、焼土243とからメヒシバ属と思われるものが各1粒ずつ検出された（図版33：2）。炭層55で検出されたもう1例は、イネ科ではあるが属は不明である（図版33：3）。

b. エノコログサ属 SETARIA Beauv.：エノコログサ属の種子（図版33：1 a、1 b）が焼土243から50粒まとまって検出されているので、表中では他のイネ科種子と分離して示しておいた。計測値でわかるように、種子の幅、厚さともに他の遺跡の出土アワより小さく、現生未炭化のムラサキエノコの大きさに近い（第5表）。炭化の過程における変形を考慮にいれても、栽培種のアワと比べてあきらかに形態の違いが大きい。

c. タデ科 POLYGONACEAE：タデ属 POLYGONUM Linn. のオオイタドリ *Polygonum sachalinense*と思われるものが、焼土237、242、炭層55、65 a～d、73 b、79 a～f から出土している。炭層83から225個検出されているものは、若干偏平の形態

	L (mm)	W (mm)	T (mm)
1	1.4	0.9	0.5
2	1.1	0.7	0.5
3	1.2	0.9	0.5
4	1.4	0.8	0.7
5	1.1	0.7	0.5
6	1.1	0.7	0.5
7	1.2	0.7	0.5
8	1.4	0.8	0.5
9	1.3	1.0	0.5
10	1.4	0.8	0.7
11	1.2	0.7	0.6
12	1.3	0.8	0.6
13	1.4	0.8	0.5
14	1.4	0.8	0.7
15	1.2	0.8	0.6
16	1.1	0.8	0.5
17	1.2	0.7	0.4
18	1.1	0.8	0.6
19	1.4	0.8	0.6
20	1.2	0.7	0.5
平均値	1.3	0.8	0.6

を示し、ヤナギタデ *polygnum hydropiper* Linn. とみられるがはっきりしない。焼土243から29個検出されたものは、おそらくタニソバ *Polygonum nepalense* Meisn であろう (図版33: 4 a、4 b)。炭層82からタデ属の未炭化の種子が89個、炭層85からも同様な未炭化種子が285個まとめて検出されているが、詳細は不明である。以上のほかギシギシ属 RUMEX Linn. と見られるものが、炭層65 a~d に2個、同79 a~f から5個出土している。

d. アカザ属 CHENOPODIUM : 焼土243から炭化種子が71粒検出されている (図版33: 7 a、7 b)。また、未炭化のものが炭層85から625粒出土している。

e. ヨモギ属 ARTEMISIA : 炭層83から炭化したヨモギ属の種子が367粒まとめて検出されている (図版33: 6)。

f. クサノオウ属 CHELIDONIUM : 炭層82、84、85から各1粒ずつ未炭化のものが、85から炭化したものが1粒検出された。

g. ホオズキ属 PHYSALIS : 炭層82から1粒出土 (図版33: 8 a、8 b)。

h. カヤツリグサ科 CYPERACEA : 炭層80からはカヤツリグサ科の種子3個が検出されている (図版34: 9 a~10 b)。うち1個はスゲ属 CAREX Linn. ではないかと考えられる (図版34: 10 a、10 b)。

i. キイチゴ属 RUBUS : 炭層79 a~f から出土している。クロイチゴ、ウラジロイチゴなどに類似するが決定し難い。

j. タラノキ属 ARALIA : タラノキ *Aralia elata* に分類されるだろう (図版34: 13)。炭化したものが焼土244、炭層79 a~f、同80から、未炭化のものが炭層82と85から出土している。特に炭層85から165粒まとめて検出されている。

k. マタタビ属 ACTINIDEA : サルナシ *Actinidia arguta* (いわゆるコクワ) である可能性が高い (図版34: 11)。どの層からも出土する傾向があるが、炭層85からは未炭化のものが705粒とまとめて出土しており、同地点から出土したアカザ属種子の量に匹敵する。

l. ニワトコ属 SAMBUCUS : 出土した種子の中で量的にもっとも多かった (図版34: 12)。ニワトコ *Sambucus seiholdiana* として間違いないうらう。ほぼ各層から出土しているが未炭化のものが多。とくに炭層70 b、73 b、85からの出土量が多い。

m. ブドウ属 VITIS : ヤマブドウ *Vitis coignetiae* か (図版34: 15)。焼土237、238、244および炭層65 a~d、同76、同81からは炭化したものが、炭層82、85からはそれぞれ未炭化のものが7粒と9粒検出されている。

n. キハダ属 PHELLODENDRON : キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. であろう (図版34: 14)。炭化種子が焼土243から1粒、炭層82から12粒出土した。

o. ウルシ属 RHUS : 炭化したものが1粒、焼土237から出土。ツタウルシ、ヤマウルシ、ヌルデのいずれであるか明確でない。

p. クルミ属 JUGLANS : オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. であろう (図版34: 17)。人為的に細片に破砕された内果皮が、各層から散漫に出土している。個数の算定が不可能なので、ク

ルミをはじめ堅果類の細片は、全て出土したものの乾燥重量で表示しておく。

q. コナラ属 QUERCUS : 少量が焼土238から検出された。図版34: 18は炭化した子葉破片。

r. ハシバミ属 CORYLUS : 少量が焼土238から検出された。

なお、ほかに不明種子が52粒ある。1例を除きダメージが大きくて資料として扱うことが出来なかった。図版34: 16にあげたものは唯一同定可能な例であるが、比較資料が不足しているのでこの仲間に含めておく。

また、表には記入していないが、F-8区4 b層上半部の焼土238から炭化した樹皮が乾燥重量で1.42 g 検出されている。樹種は不明である。因に同層位からコナラ属 QUERCUS、ハシバミ属 CORYLUS の堅果細片が少量ではあるが出土している。樹皮はD-8区の焼土242、E-7区の焼土244からも検出されているが、前例同様樹種については不明である。そのほか、炭層83からは炭化した木の冬芽の出土が目された。大小2種類あり、大きいものは4 mm~5 mm程のものが154個、小さいものとしては2 mm~2.5 mmのものが23個検出されている。だが、どの樹種のものであるかは不明である。もし、この炭層の形成が人為的な起源を持ち、しかも2次的な堆積でないならば、これが季節指標として利用出来る可能性も考えられよう。

今回の発掘で得られた資料は総体として陽地性の植物で、木本を除けば地表面の攪乱によって多く見られる“雑草”である。タデ科やアカザ属、ヨモギ属などの出土状態および遺物の出土や焼土の存在から考えれば、この地域は人為的な破壊を受けていた可能性が高い。花粉分析を担当した山田悟郎氏の教示によれば、この地域からソバ (*Fagopyrum esculentum* Moench) とみてよい資料が検出されているとのことである。そうならば、河川の氾濫に関連した地表面の破壊以外に、耕作による近隣地表の更新の可能性も十分にあり得るだろう。かつてアイヌ民族がおこなっていた農耕においては、河川氾濫原に素朴な耕作地をもつケースが報告されているので (林1969: 27)、今回のような地点にはとくに注目しておく必要があるだろう。しかし、残念ながら地層プロフィールがきわめて複雑で、そこに狭在していた炭層がどの程度1次的かという調査者の判断が、植物遺体の分野からの結論に優先するものと思われる。

[謝 辞]

貴重な発掘資料について分析の機会を与えられた、札幌市の埋蔵文化財調査担当者上野秀一氏ならびに走査電顕 (SEM) の撮影・同定などの作業を担当してくれた北海道大学埋蔵文化財調査室椿坂恭代氏、植物分類と地層堆積の検討に種々協力して下さった北海道開拓記念館の山田悟郎氏に感謝の意を表したい。

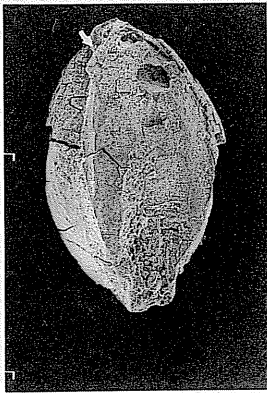
[文 献]

林 善茂 1969『アイヌの農耕文化』、218頁、索引16頁、慶友社 (東京)

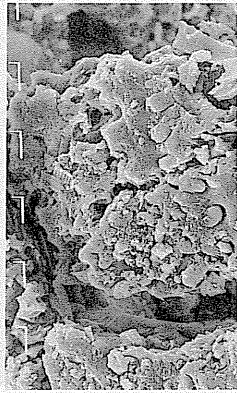
第6表 K135遺跡4丁目地点出土植物遺体一覧表

遺構名	層位	地区	イネ科 (粒)	エノコログサ属 (粒)	タデ科 (粒)	アカザ属 (粒)	ヨモギ属 (粒)	クサノオウ属 (粒)	ホオズキ属 (粒)	カヤツリグサ科 (粒)	キイチゴ属 (粒)	トラノキ属 (粒)	マタタビ属 (粒)	ニワトコ属 (粒)	ブドウ属 (粒)	キハダ属 (粒)	ウルシ属 (粒)	クルミ属 (g)	コナラ属 (g)	ハシバミ属 (g)	不明種子 (粒)	小計									
																						種	子 (粒)	堅果・子葉 (g)							
焼土236 a・b	1 e 上	F-8												1								1	2								
焼土237	1 e	F-8			3									5	2		1					1	11								
焼土238	4 b 上	F-8			2								2	2	1				0.17	0.19		2	9	0.36							
焼土239	5 a 下	F-8																4.75					3	4.75							
焼土240	III a 上	C-7/8											1									2	3								
焼土241	VIII	E-7											1									2	3								
焼土242	XX a・b	D-8			1								1	17				<0.01					17	2	<0.01						
焼土243	XXVII	D-7	1	50	29	71							4			1						3	159								
焼土244	XXXI a 上	E-7										1			7								8								
小計			1	50	35	71	—	—	—	—	—	—	1	9	17	8	10	1	1	4.75	0.17	0.19	10	17	197	5.11					
炭層49	5 r	F-8																				1	1								
炭層50 a~j	III a ?	D-8																0.25				8	9	0.25							
炭層51	III a ?	D-8																				1	1								
炭層52	III a ?	D-8																													
炭層53	III a 下	C-7																													
炭層55	XIII	C-8	2		3																	2	7								
炭層56	XIII	C-8																													
炭層57	XIII	C-8																													
炭層58	XIII	C-8																													
炭層59	XIII	C-8																<0.01				1	1	<0.01							
炭層60 a~c	XVIII a 上	D-7																0.26				1	1	0.26							
炭層61	XVIII a 中	C-7																													
炭層62	XVIII a 中	D-7																													
炭層63	XVIII a 中	D-7																													
炭層64	XVIII a 中	D-7/8																													
炭層65 a~d	XVIII a 下	D-7			23								1		27	1		0.44					52	0.44							
炭層66 a~e	XVIII a 下	D-7/8											1					0.18				1	2	0.18							
炭層67 a~d	XIX b 下	D-7													14			<0.01					14	<0.01							
炭層68	XIX b 下	D-8																													
炭層69	XX a 上	D-8			1								1		17							3	18	4							
炭層70 a	XX a 下	C-7/8													29			<0.01				1	29	1	<0.01						
炭層70 b	XX a 下	D-7/8													239	8						1	239	9							
炭層71	XX a 下	D-7													3							2	3	2							
炭層72	XX a 下	D-7													1			0.53					1	0.53							
炭層73 a	XX b 下	C-7											2		7			0.12				2	9	2	0.12						
炭層73 b	XX b 下	C-7/8 D-7			8								1	118	2			0.26				3	118	14	0.26						
炭層74	XX b 下	C-7																													
炭層75	XX b 下	D-8																													
炭層76	XX b 下	E-7																													
炭層79 a~f	XX c 下	E/D-7/8			39						1	4	26	2	54	44		0.03				5	80	95	<0.01						
炭層79 g	XX c 下	D-8																													
炭層79 h	XX c 下	D-8																													
炭層79 i	XX c 下	D-8																													
炭層80	XX c 下	E-8			6					3		1	11	4	2							1	13	15							
炭層81	XX c 下	E-8													7			1.75				3	7	2	1.75						
炭層82	XX c 下	E-8			89			1	1			5	51	10	19	7	12					3	172	33							
炭層83	XX e 中	C-7			225								6											598							
炭層84	XXI c 上	D-8						1					24	37	4							3	29	40							
炭層85	XXI c 下	D-7/8			285	625		1	1			165	705	5	131	9							1,921	6							
小計			2	—	374	312	625	367	3	1	1	3	1	170	5	820	67	631	96	16	4	12	—	3.82	—	—	39	2,639	910	3.82	
第16号ピット	XVII b 上	E-7			20										2										0.36						
合計			3	50	374	367	625	71	367	3	1	1	3	1	170	6	820	78	648	104	16	14	13	1	8.93	0.17	0.19	49	2,656	1,129	9.29

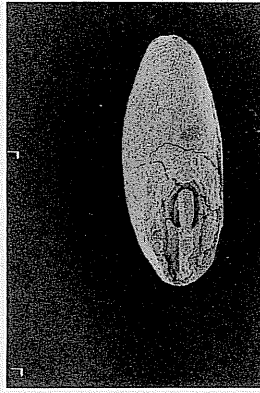
(註): 点線の左側の数字は未炭化の種子、右側は炭化した種子。



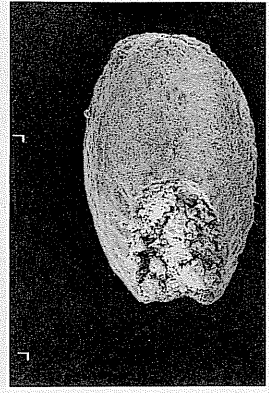
1a



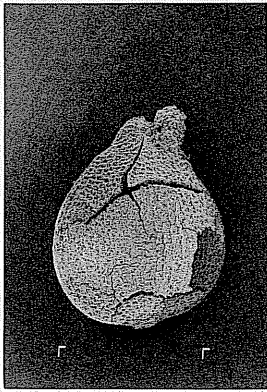
1b



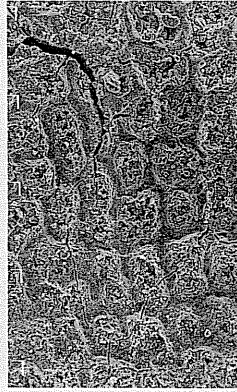
2



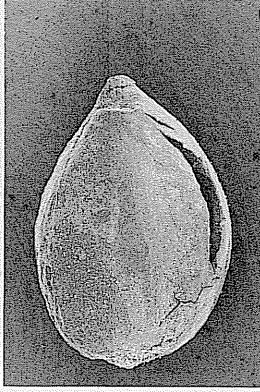
3



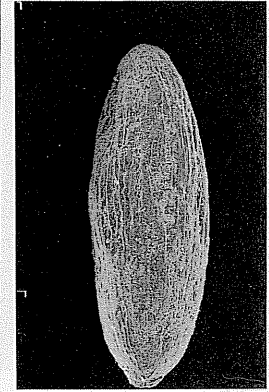
4a



4b



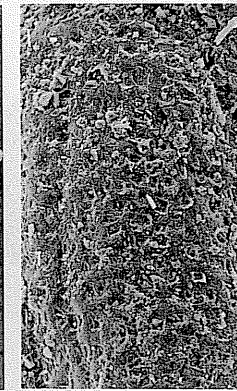
5



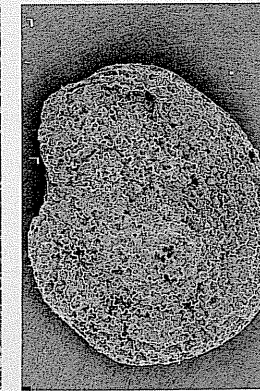
6



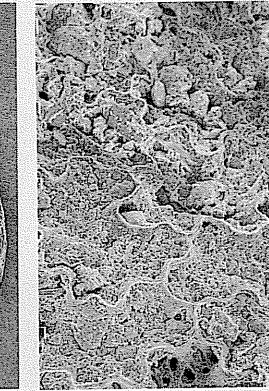
7a



7b

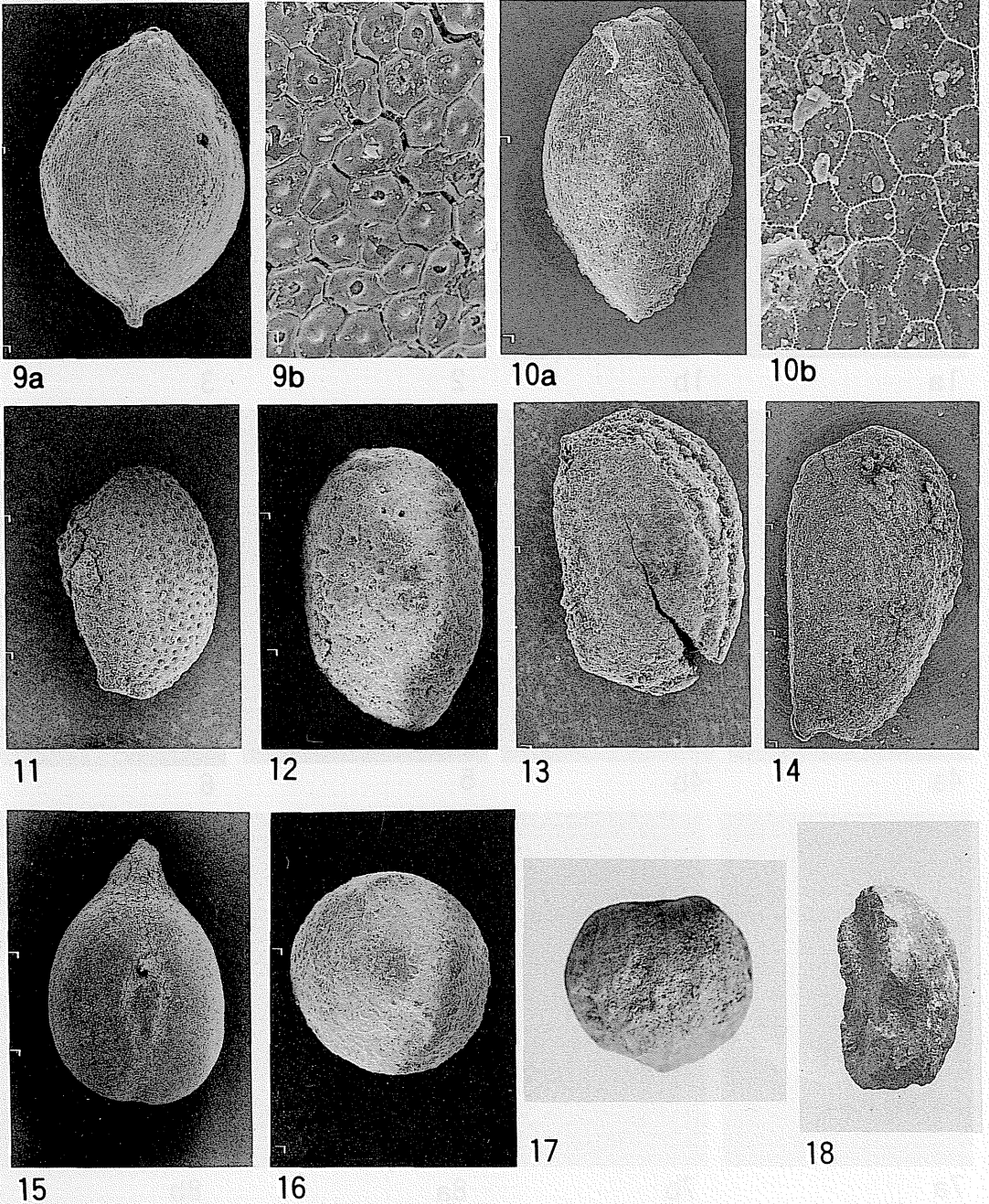


8a



8b

出土種子(1)(スケール「」の間隔1.0mm,部分拡大写真の「」の間隔 1bは0.01mm,それ以外は0.1mm)
 1 a : エノコログサ属(焼土243, XXVII層), 1 b : 1 aの拡大, 2 : メヒシバ属(炭層55, XIII層), 3 : イネ科種子(焼土243, XXVII層), 4 a : タニシバ(焼土243, XXVII層), 4 b : 4 aの拡大, 5 : タデ属(炭層83, XX e層中), 6 : ヨモギ属(炭層83, XX e層中), 7 a : アカザ属(焼土243, XXVII層), 7 b : 7 aの拡大, 8 a : ホオズキ属(炭層82, XX c層下), 8 b : 8 aの拡大



出土種子(2) (スケール「」の間隔1.0mm, 部分拡大写真の「」の間隔0.1mm)

9 a : カヤツリグサ科(炭層80, XX c 層下), 9 b : 9 a の拡大, 10 a : スゲ属?(炭層80, XX c 層下), 10 b : スゲ属?(炭層80, XX c 層下), 10 b : 10 a の拡大, 11 : マタタビ属(焼土238, 4 b 層上), 12 : ニワトコ属(焼土237, I e 層), 13 : タラノキ(焼土244, XXXI a 層上), 14 : キハダ属(炭層82, XX c 層下), 15 : ブドウ属(炭層85, XXI c 層下), 16 : 不明種子(炭層73 a, XX b 層下), 17 : オニグルミ堅果(長さ21mm×幅24mm, 炭層82, XX c 層下), 18 : コナラ属子葉(長さ8mm×幅4.5mm, 焼土238, 4 b 層上)